

緩和ケアだより

平成29年度 第2号

平成29年度は、これまで10年計画で施行されていた「がん対策基本法」の評価をふまえ、改正がん対策基本法が6月から施行されました。これを受けて、第3次がん対策推進計画が各地域で話し合われているところです。

緩和ケアの分野においては、手術・放射線治療・化学療法とならんで、その質の均てん化が求められるようになりました。質評価の指標として、痛みを持つがん患者さんを1割以下にする、緩和ケアに関する専門資格取得、遺族調査を定期的実施し評価することが提案されています。さらに、緩和ケアの内容としては、治療に伴う支持療法として、化学療法に伴う、しびれなどの薬剤性末梢神経障害や乳腺手術野骨盤外科手術の後遺症であるリンパ浮腫への対応が重点項目とされています。そして、がん患者の積極的な社会参画を促すために、がんリハビリテーションの更なる強化が盛り込まれました。また、療養の場が変化しても質の高い緩和ケアを受けられるように、2年以内の在宅緩和ケアの構築が計画されています。

これまで行われていた緩和ケア研修会は、拠点病院以外の医療者と初期研修医終了までに全ての医師が受講終了することが、求められています。さらに、研修内容にグリーフケアが追加されます。その一方、受講者負担を軽減するために、一部e-Learningを導入して、研修はグループワーク/ロールプレイの1日で終了するよう変更予定です。

以上、今後5年間のがん対策における緩和ケアはがん医療のさらなる充実のために支持療法を強化し、がんとの共生を支えるサービスを提供します。（緩和ケアセンター長 安藤 秀明）

第22回 日本緩和医療学会学術大会（6/22～6/24 横浜開催）

発表：三浦京子 清水和美

6月23、24日に開催された第22回日本緩和医療学会学術学会に参加し、「緩和ケアチーム介入事例における多職種での精神的支援の現状と課題」についてポスター発表を行ってきました。

患者・家族の多様なニーズに対応するためには、多職種で協働しながら関わるのが重要ですが、いかに多職種間で円滑に役割分担し連携していくかが課題となります。他施設の参加者とも意見交換でき、課題解決に向けて取り組むべきことについて考察することができました。

今回の研究結果も踏まえ、緩和ケアチーム内および相談いただく主治医・病棟スタッフのみなさんとの効果的な連携方法について今後も検討していきたいと思います。

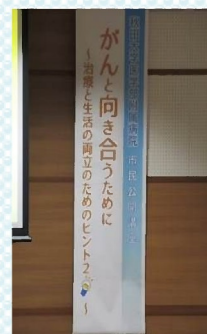
In 横浜

秋田は梅雨の最中でしたが、横浜はまぶしい！！



市民公開講座を開催しました！

テーマ：がんと向き合うために
～治療と生活の両立のためのヒント2～
日 時：7月1日（土） 13:00～15:00
主 催：秋田大学医学部附属病院
がん相談支援センター、緩和ケアセンター
会 場：本道40周年記念会館 2階 本道記念講堂



7月1日(土) に、がん相談支援センターと緩和ケアセンター共催で、第3回となる市民公開講座を開催いたしました。今回は、昨年に引き続き、テーマを「治療と生活の両立のためのヒント2」とし、より実生活に即した内容にしました。



今回の公開講座開催にあたり、緩和ケアチームで紹介しておりました患者さんから、何かお役に立ちたいというお申し出があり、参加いただきました。

安藤緩和ケアセンター長との対談の中で、発病時、治療中、退院後、職場復帰までの体験を語っていただきました。印象的な言葉として「医療者、職場のひとたちとのコミュニケーションの大切さ」「家族、社会とのつながりを大事にする」「病気を持っていても仕事を続けること、それが病気の回復につながり、生きる糧になった」など貴重なお話でした。参加者のアンケートからも大変好評でした。

また、今回、初めて本道記念講堂を使用させていただきました。一般の方々からも素晴らしい会場とのお誉めのお言葉をいただきました。

医療安全研修受講済シール配付対象研修

疼痛管理ポケットマニュアル改訂説明会のお知らせ

「疼痛管理ポケットマニュアル(第9版)」の改訂に伴い、医療安全管理部、薬剤部と共催で、**8月22日(火)**に研修会を開催します。

詳細に関しましては別途ご案内しますので、ぜひご参加ください。
なお、第9版は、研修会前に配付予定です。

【日時】 8月22日(火) 17:30～18:30

【場所】 第2病棟2階 多目的室

【内容】

1. 疼痛管理ポケットマニュアル改訂点について (薬剤部 薬剤師 尾関智子)
2. 医療用麻薬の選択について (緩和ケアセンター 医師 安藤秀明)
3. 医療用麻薬に関するインシデントについて (医療安全管理部 医師GRM 小坂俊光)



※これは第8版です